

# 付録 1

このガイドラインにおける教育内容と教育方法の全体像は以下のとおりです。

心身機能の発達	利用実態	小学生		中学生	高校生	成人	高齢者					
		未就学児 (～6歳)	4～6年生									
		1～3年生	4～6年生									
心身機能の発達	利用実態	自転車に乗り始める／利用頻度の増加		行動範囲が拡大	通学目的での利用	通勤や仕事での利用 電動アシスト車や幼児同乗車の利用増	生活目的での利用 (買い物・通院)					
		保護者と同乗／保護者と一緒に運転										
		未熟		未熟 (徐々に成熟)				加齢に伴い変化				
		加齢に従い、社会性、感情、パーソナリティ、道徳性による影響を受ける										
事故実態	共通	事故類型別では「出会い頭」が最多 / 法令違反別では「安全運転義務違反」が最多										
		「安全運転義務違反」の要因として「安全不確認」が増加		「安全運転義務違反」の要因として「動静不注視」が増加		「ハンドル操作不適」が増加						
				自転車乗用中死傷者数が急激に増加 対歩行者の死亡・重傷事故が急激に増加 携帯電話使用等に起因する事故が増加								
目的												
○ 自転車の安全な運転に必要な知識及び技能を体系的に習得すること ○ 「自他の生命尊重」の理念の下、自転車が「軽車両」であることを理解し、交通社会の一員としての自覚を持つこと ○ 自転車利用者が交通ルールを遵守して、自己や交通社会を共有する周囲の者の安全を確保して運転することができるようになること												
目標	のライブラリースタージごと											
	・歩行者として、また、将来、自転車利用者として道路を安全に通行するためのルールを学ぶ。 ・まっすぐ走る、止まりたい場所で止まるといった自転車の基本的な技能を習得する。		・正しいブレーキのかけ方で止まること、周りの状況に合わせた速度の調整など自転車の技能を高める。 ・自転車を徹底することは、歩道では歩行者が優先でゆっくり通行すること、赤信号・一時停止標識のある交差点では必ず止まることが身に付ける。		・中学生(13歳)から安全に車を走らせるよう、左側通行の原則を徹底し、自転車に乗る上で必要な一通りの交通ルールと運転技能を身に付ける。 ・自転車に乗るときの交通ルールの理解を深め、定着するようにする。 ・加害者となり刑事・民事上の責任を問われ得ることを認識するとともに、他の車両や歩行者に対するコミュニケーション能力や危険を担う理解・予測して回避するための能力を習得し、交通社会の一員として、自転車の安全を確保することが大切なことを自覚する。		・自転車に乗るときの交通ルール、他の車両や歩行者とのコミュニケーション能力と危険を回避・予測して回避するための能力を確実に習得する。 ・自動車の免許取得が近づく中、将来の交通社会を担う存在として、自転車を運転するときの社会的責任を理解し、歩行者が優先であることを徹底する。		・高校生までに習得する交通ルール、他者とのコミュニケーション能力、危険予測と回避能力、歩行者優先といった事項が確実に身に付き、実践できるか確認し、不十分な点を補う。 ・他の模範となる行動を実践し、こどもに対して交通ルールを教えることができるようになる。		・自転車に乗るときの交通ルールを確認し、理解が不十分な点を習得する。また、70歳以上で普通自転車歩道を通行するときの歩行者優先を徹底する。 ・加齢によって、身体機能や認知機能に変化し、路外逸脱や転倒事故が増加することから、運転技能が十分か確認し、夜間の運転は控えるなどする。	
技能	・バランス能力の向上 ・ブレーキのかけ方							・加齢に伴う運転技能の変化の理解				

教育内容・教育方法例（※白抜き部分が教育方法の例）					
知識（交通ルール）	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>信号機の番号等に従う義務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徐行すべき場所</li> <li>・指定場所における一時停止</li> <li>・ヘルメットの着用</li> </ul> </div> <div style="width: 48%;"> <p>道路交通法上の自転車の位置付け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横断歩行者の優先</li> <li>・並進の禁止</li> <li>・二人乗り等の禁止</li> <li>・携帯電話使用等の禁止</li> <li>・事故時の対応</li> </ul> </div> </div>				
	<p>全般の交通ルール （ルールの再確認）</p>				
危険予測・回避行動	<p>「技能」及び「行動・態度」の教育と関連付けながら必要な知識を習得する （※安全教室等の機会のほか、購入時や日常生活における声かけ等あらゆる機会を活用して実施）</p>				
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>交差点等における「止まる」「見る」「確かめる」の習得・徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交差点等を模した空間での法規走行</li> <li>・日常的な道路の走行（保護者が付き添い）において「止まる」「見る」「確かめる」をこどもと一緒に行う</li> </ul> </div> <div style="width: 48%;"> <p>身の周りの危険箇所の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行者や車両といった他の交通主体の動きの予測</li> <li>・見とおしの悪い交差点でのフィールドワーク、安全マップの作成</li> <li>・実際に起きた交通事故の概要と危険予測に関する教訓の説明</li> </ul> </div> </div>				
	<p>身・身の周りの危険箇所 家族、自治体等による危険箇所の呼び掛け</p> <p>加齢に伴う身体機能・認知機能の変化の理解</p> <p>シミュレーター等を用いながら危険予測能力の再確認</p> <p>とるべき回避行動</p>				
交通安全の一員としての態度	<p>他の人がいることの認識及び他の人を思いやる気持ちの醸成</p> <p>日常生活や技能面の教育を通じ、他者や物へぶつからないことのために取るべき行動について話し合う</p>				
	<p>歩行者保護の重要性の理解と実践</p> <p>交通ルールの教育を通じて、歩行者と自転車の優先関係や、どのような配慮を行うべきかを考える</p>				
	<p>歩行者や車両といった他の交通主体への配慮の重要性の理解と実践</p> <p>交通ルールや危険予測・回避について学ぶ中で、自分の行動を振り返り、自分がどのような運転を行えば自らを守るとともに交通の円滑が保たれるかを検討・討論</p>				
教育主体・教育機会	<p>販売事業者、レンタル・シェアサイクル事業者（購入時、利用時の教育）</p> <p>保護者（日常的教育）</p> <p>学校等（日常的教育、安全教室等の開催）</p> <p>交通安全教育を行う民間事業者や地域の団体、自治体（安全教室等の開催や他の教育主体への協力）</p>				
	<p>刑事・民事上の責任の理解</p> <p>対歩行者事故等により損害賠償や刑事責任が発生した事例の学習</p>				
	<p>安全な社会づくりの理解</p> <p>地域の交通安全イベント等への積極的参画</p>				

## 付録 2

各ライフステージを通じて習得することとしている基本的な交通ルールの一覧です。

\* p.105～「6 基本的な自転車の交通ルール」で各ルールを解説しています。  
該当する番号のページを参照してください。

カテゴリー	交通ルール		未就学児	小学生	
				1～3年生	4～6年生
歩行者保護をはじめとする他の交通主体との調和のための交通ルール	道路交通法上の自転車の位置付け	1		自転車は「軽車両」であり「車両」の一種	
	自転車の通行場所と通行方法	車道	2	車道が原則 + 左側通行	
			2	左側端を通行	
			2	普通自転車専用通行	
		歩道	2	自転車道がある場合	
			3	歩道を通行できる場合の通行場所 + 通	
			3	普通自転車通行指定部分（歩道上）が設け	
			4	路側帯が設けられて	
			5	横断中又は横断しよ	
	6	他の軽車両との並進			
7	駐輪場所（駐輪場の利用） + 歩行者や				
事故に遭わないための交通ルール	信号機の信号等に従う義務	8	従うべき信号 + 信号の意味 + 取るべき行動		
	徐行すべき場所	9	左右の見とおしがきかない交差点・曲がり角付近等における徐行		
	指定場所における一時停止	10	「一時停止」標識の意味 + 安全確認		
	右左折の方法	11	左折：左側端に沿って徐行 右折：左		
	交差点の通行方法	12	交差点の通行方法（自転車横断帯 +		
		12			
	踏切の通行方法	13	踏切の直前（停止線がある場合はその直前）		
危険な行為の禁止	飲酒運転の禁止	14			
	携帯電話使用等の禁止	15	携帯電話使用等の		
	乗車の制限等	16	二人乗りの禁止		
	イヤホン・傘差し運転の禁止	17			
	制動装置不良自転車の運転の禁止	18			
自分や他者の身を守る方法	ライトの点灯	19	ライトを点灯する必要性		
	ヘルメットの着用	20	ヘルメット着用の必要性		
	点検整備	21	自転車の各部の名称 + 最低限の点検項目		
	事故時の対応	22	交通事故発生時の		

中学生	高校生	社会人	高齢者	法条	五則
				§ 2① (11)	—
				§ 17①④	①
				§ 18①	
				§ 20②	
				§ 63の3	
				§ 63の4	
				§ 63の4	—
				§ 17の3	
				§ 38	
				§ 19	
				§ 44～	
				§ 7	②
				§ 42	②
				§ 43	②
				§ 34	—
				§ 36	②
				§ 33	—
				§ 65	④
				§ 71 (5の5)	—
				§ 57	—
				§ 71 (6)	—
				§ 63の9	—
				§ 52	③
				§ 63の11	⑤
				§ 62	—
				§ 72①	—